２０２６年度

講義概要（シラバス）

３年生

松江総合医療専門学校

理学療法学科

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法研究法	単位数	2	開講年次	3 年
担当教員	馬庭春樹	実務経験		理学療法士として総合病院での実務経験あり	
授業形態	講義				
授業内容	研究過程を講義および On-The-Job Training 形式で体験し、理学療法士における研究の意義、研究の過程、研究法に関する基礎知識を学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	① 理学療法士における研究の意義を理解する。② 研究実施の過程を理解する。 ③ 研究法に関する基礎知識を理解する。				
到達目標 （行動目標）	① 疑問を形式化して表現することができる ② 疑問について調査するための文献を収集することができる ③ 文献を読む意義を理解し、批判的に読み解くことができる ④ 研究デザインについての基礎知識を理解する ⑤ 統計の必要性、統計用語、統計手法の選択についての基礎知識を理解する ⑥ エビデンスに基づく理学療法のステップ、エビデンスレベルについて理解する ⑦ その他、研究法に関する基礎知識を理解する				
回数	授業計画				
1	理学療法士が研究を行う意義、概要、EBM について				
2	クリニカルクエスチョン発見、リサーチクエスチョン生成の実際				
3	文献の概要、検索方法、読解方法について				
4	文献検索、読解の実際				
5	研究計画書の作成方法、研究デザインについて				
6	研究計画書作成の実際				
7	統計解析の概要、用語、統計手法について				
8	統計解析の実際				
9	研究結果の公表について（学会発表・論文）				
10	研究発表の実際				
11	研究法についての基礎知識・問題演習①				
12	研究法についての基礎知識・問題演習②				
13	研究法についての基礎知識・問題演習③				
14	研究法についての基礎知識・問題演習④				
15	研究法についての基礎知識・問題演習⑤				
成績評価	提出物（50%）、小テスト（50%）で成績を評価する。				
教科書及び参考書	特に指定しない				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター 適宜、資料を配布する				
メールアドレス	maniwa-h@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					
文献検索では PC、スマートフォン、タブレット端末での検索を行うが、必要な作業以外では使用しない。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法管理理学	単位数	2	開講年次	3 年
担当教員	内田　武	実務経験	理学療法士として総合病院での実務経験あり		
授業形態	講義				
授業内容	様々な臨床の症例を通して、理学療法管理に必要な内容を学ぶ。今までに学んだ疾患に対する知識を深めると共に、理学療法をマネジメントするという観点から、検査法や治療法まで学習して、実践できるように学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法として勤務する場合、対象者のもっているリスクを把握することは当然のこと、危機を防ぐマネジメント能力が不可欠である。本講義では臨床の場を中心に、急性期を始め様々な時期や目的における管理・マネジメント全般について取り上げ、実技を含めながら理解を深める。				
到達目標 （行動目標）	○理学療法管理において、組織運営や職場管理、業務の内容について理解できる。 ○様々な対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。 ○個々の対象者に対して必要なマネジメントを構築し、理学療法プランを立てることができる。				
回数	授業計画				
1	理学療法管理学概論				
2	組織運営のマネジメント				
3	理学療法士の職場管理、業務のマネジメント				
4	リスク管理				
5	疾患別・病期別・目的別・療法士別の理学療法マネジメント				
6					
7	・疾患別・病期時期のマネジメント				
8	・目的別のマネジメント				
9	・療法士別のマネジメント"				
10					
11					
12					
13					
14					
15	管理学まとめ				
成績評価	課題レポート等で評価する				
教科書及び参考書	随時配布				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、配布資料				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論Ⅴ （近代理学療法）	単位数	2	開講年次	3年
担当教員	内田　武	実務経験	理学療法士として総合病院での実務経験あり		
授業形態	講義				
授業内容	近年、理学療法士の職域拡大に伴い対象となる疾患や障害は増加傾向にある。 本科目では「これからの理学療法」を念頭に各項に対して学習する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法士の職域拡大を知るとともに各項に対して概要や理学療法士としての関わり方を理解する。				
到達目標 （行動目標）	上記内容を踏まえて、専門用語を使い各項の説明ができるようになる。 また今後予想される理学療法士の職域について自らの意見が述べられるようになる。				
回数	授業計画				
1	がん患者の理学療法①				
2	がん患者の理学療法②				
3	ウィメンズヘルスと理学療法①				
4	ウィメンズヘルスと理学療法②				
5	精神疾患における理学療法①				
6	精神疾患における理学療法②				
7	災害時の理学療法①				
8	災害時の理学療法②				
9	終末期における理学療法①				
10	終末期における理学療法②				
11	産業における理学療法				
12	学校保健における理学療法				
13	スポーツ活動支援における理学療法①				
14	スポーツ活動支援における理学療法②				
15	国際支援における理学療法				
成績評価	筆記試験など総合的に評価する				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター 適宜、資料を配布する				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
各領域に興味を向け、積極的に講師へ質問を行うこと。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	臨床実習 II	単位数	16	開講年次	3 年
担当教員	理学療法学科教員	実務経験	理学療法士として病院での実務経験あり		
授業形態	診療参加型臨床実習				
授業内容	実習施設において臨床実習指導者のもと，対象者に対する理学療法評価から治療プログラムの立案という一連の過程を総合的に実習する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法の流れを理解し、臨床内容の意義を理解した言動を取る。チーム職種の考え、行動を理解し、チーム職種が考えた臨床推論について説明できる。自らの考えを模倣的に発する経験を積む。				
到達目標 （行動目標）	①理学療法士としての基本的姿勢を身につける。（身だしなみ、言葉遣い、規則厳守） ②患者様に対して医療人としての対応ができる。 ③理学療法士の施設での位置づけ、業務内容が理解できる。 ④臨床実習に意欲的、積極的に取り組むことができる。 ⑤評価に必要な情報を他部門やカルテより収集できる。 ⑥妥当性のある目標の設定ができる。 ⑦仮説立案をして問題点の抽出ができる。 ⑧抽出した問題点に対して、必要な検査・測定ができる。 ⑨検査測定の結果について解釈ができる。 ⑩治療プログラムの立案ができる。 ⑪基本的な理学療法治療を、指導を受けながら適切に実施できる。 ⑫記録・報告が適切な時期・方法で行える。				

授業計画

臨床実習 II（16 単位)は 2 回（2 期）に分けて実施する。客観的臨床能力試験（OSCE:2 時間）
実習施設における実習（640 時間：1 期 320 時間）
・見学、模倣、実施を段階的に指導者の判断の下、リスクの低い患者様、指導の下、実施可能な患者様において評価、治療等を行う。
・日々の関わりの中で、入院から退院までの流れを知るとともに、ゴール設定、問題点の抽出、治療プログラム立案の考え方を指導者より学ぶ。
実習施設：医療提供施設（病院、診療所、老人保健施設）
課題（76 時間)：自己チェックシート、問題点と努力目標（実習前後に記入）
臨床能力総合試験（OSCE：2 時間）

成績評価	提出物、実習評価表および OSCE の結果より総合的に判断する。
教科書及び参考書	特に指定しない
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	特に指定しない
メールアドレス	

備考（受講に際する留意点など）

これまでの学習内容や、評価・検査に関する技術などを確認しておくこと。臨床実習 I で、介護老人保健施設や特別養護老人ホームで実習を行った者は、2 回とも病院もしくは診療所で実習を行う。臨床実習 I で、病院又は診療所で実習を行った者は、 1 回か 2 回、病院もしくは診療所で実習を行う。